

投与中、低血糖、代謝性アシドーシス、白血球増加、高アンモニア血症等をきたし報告されている幾つかの症例に類似していた。ホバテン酸の作用機序より低血糖、アシドーシス等の発生機序について若干の考察を加えた。

6) 飲酒後の低血糖を主徴とした ACTH 単独欠損症の 1 例

山崎 肇・林 睦子 (白根健生病院)  
 広野 茂 (内科)

症例は58歳男性。昭和62年12月食事を摂取せず、ウイスキー100ml 飲酒、翌日昏睡状態で入院した。入院時血糖 21mg/dl。貧血、好酸球増多、血清電解質異常、低コレステロール血症なし。血中コルチゾール 0.2 μg/dl, ACTH 10.1pg/ml。ACTH-Z 負荷試験で尿 17-OHCS 0.30→9.20mg/日、尿 17-KS 1.90→5.00mg/日。インスリン負荷試験には ACTH は反応せず。アルギニン、TRH、LHRH による三重負荷試験では、成長ホルモンは無反応であったがその他の下垂体ホルモンは正常反応。インスリン分泌は正常。以上より本症例はACTH 単独欠損症と考えられ、食物摂取なくアルコールを飲用したため糖新生が抑えられ低血糖を誘発したものと思われる。本症例はその後ハイドロコチゾン補充で健康を保っている。

7) 脳波を追跡した副腎クリーゼの 1 例

横山 知行・谷 長行 (木戸病院内科)  
 浜 斎

意欲低下、意識障害といった精神症状を主訴に来院し、入院精査中に副腎クリーゼをきたした症例を経験し、また、その症状及び脳波をフォローアップしたので、若干の考察を加えて報告した。

従来、副腎皮質機能不全に生じる脳波異常としては、前頭部優位の徐波化傾向、律動性θ波、高振幅速波の出現、開眼による基礎律動波の抑制不良、過呼吸に対する過敏性があげられており、また crisis 時には、前頭部優位の徐波は減少し、slow α 主体になるという報告がある。そして、これらは電解質の変動、糖代謝障害等の原因の他に長期にわたる副腎皮質機能不全が加わったための中樞神経系の広汎な機能低下を反映した特徴的な脳波所見と結論づけられている。

我々の症例においては、前頭部優位の徐波および律動性のθ波は認められたが、過呼吸との強い関連は見られず、また、crisis 時の paradoxical な正常化も認められなかった。本症例では脳波異常の原因は副腎皮質機

能不全による低血糖、および電解質異常による機能的な脳障害による可能性が高いことが示唆された。なお、投与後、80日を経て、認められる徐波の混入についてはこれが可逆的なものなのか、あるいは、従来言われているように副腎皮質機能不全が加わったための中樞神経系の広汎な機能低下を反映した所見なのか、今後 FOLLOW UP していきたい。

8) 身体的特徴がなく血清 Ca が正常であった 偽性副甲状腺機能低下症の 1 例

伊藤 和彦・筒井 一哉 (県立がんセンター)  
 佐藤 幸示 (新潟病院内科)  
 堀田 哲夫 (同 整形外科)  
 高橋 栄明 (新潟大学整形外科)

腰痛を主訴として来院した57才男性が、整形外科にて1. 骨粗鬆症、2. 第一腰椎圧迫骨折の診断をうけた。二次性骨粗鬆症の検索にて PTH-c 9.7ng/ml と異常高値を示し当科紹介受診した。Albright 徴候なく、血清 Ca 8.8mg/dl p 2.8mg/dl と正常値を示したが、Ellsworth-Howard 試験にて、尿中リン酸排泄低反応・尿中 cAMP 著増から偽性副甲状腺機能低下症 II 型と診断した。C-端以外の PTH、各種 VitD、カルシトニンは正常値、イオン化 Ca 軽度上昇を認め、テトラサイクリン標識後の骨生検では低回転型骨粗鬆症と診断された。今後、PTH-c のみ異常高値の原因を、追求していく予定である。

9) インスリン治療離脱の糖尿病 2 例について

江口 行夫 (済生会新潟総合病院内科)  
 大桃 幸夫・新井 繁 (同 産婦人科)

インスリン治療(以下イ. 治療)の成人糖尿病 2 例について、それぞれ契機があり、イ治療を離脱した経過を報告する。1 例は51才の男性で、ウン・ブタ混合イ. 治療にて偶発した高度の皮膚アレルギーに対し、抗ヒスタミン剤(以下抗ヒ. 剤と略)治療及び MC インスリンへの変更により、アレルギーは治癒したが、低血糖が頻発し、イ. 治療が不要になった。寛解は約4年間で、この間 OGTT で IRI は高値高反応、血糖3時間値が低値であったが、自発性低血糖は見られなかった。インスリン抗体結合率は次第に低下し、今季再発時は10%以下。内因性インスリン離脱には抗ヒ. 剤使用の影響があったと思われるが、更に詳細な検討が必要である。

2 例は36才の女性で若年期、高血糖昏睡にて入院、以後14年以上、イ治療をうけたが、妊娠を機に厳格コント